

生涯教育研修活動報告書

遺伝子染色体検査研究班

- 1 実施日時： 2022年11月8日 19時00分～21時00分
- 2 会場： Web開催 点数： 基礎教科 -20点
- 3 主題： 遺伝子検査を学ぶための最初の一步
- 4 講師： 飯野 望（埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科）
- 5 協賛： なし
- 6 参加人数： 会員 36 名
- 7 出席した研究班班員：小内玲子、園山政行、石橋佳朋、折原悠太、相良真理子、松岡優

8 研修内容の概要・感想など

第1回遺伝子染色体検査研究班研修会が開催された。

今回は、「遺伝子検査の基礎」というタイトルで班員である飯野氏が講演を行った。

「遺伝する」ということはどういうことなのか、「遺伝子」とはどういうことなのか。から始まった。分子生物学では遺伝子の基本であるセントラルドグマで DNA がどのように変化をしていくのか、DNA と RNA の関係を知ることになる。

また、遺伝子は細胞核に存在し、その中の染色体の所定の場所に決まっており、染色体の中には遺伝子が詰まっているというわかりやすい説明で遺伝子と染色体が結びつかなかった方も、より理解が深まったのではないのでしょうか。

遺伝子検査といっても種類があり、現在、遺伝子検査の中には、大きく分けて3つの検査が存在する。

1つ目は、病原体核酸検査である。人以外の遺伝子検査で近年最も多く行われている検査に、新型コロナウイルス検査がある。

2つ目は、体細胞遺伝子検査である。この体細胞遺伝子検査は、つぎの世代に伝わ

らない遺伝情報の検査で「がん」などが挙げられる。

そして3つ目は、生殖細胞系列遺伝子検査である。これは、一生変化しないヒトの遺伝子変化で、つぎの世代に伝わる遺伝情報の検査である。単一遺伝子疾患や1塩基多型、個人特有の遺伝情報に係る検査がある。

では、検査はどのようにおこなうのか。また、遺伝子検査をおこなうために注意する点、検査に必要な試薬の特性や種類の紹介から解析方法までをわかりやすく説明していただいた。

臨床検査は、機械化が進んでいるが、遺伝子検査は用手法が多い検査であることを改めて思った研修会となった。

遺伝子染色体検査研究班では、先日行われたアンケート調査などをもとに、この第1回研修会を皮切りに会員の皆様が望む研修会を行っていきたいと考えています。今後の研修会活動に期待してください。

提出日 2022年12月8日

文責：小内玲子